

序章 ウェブ補論 ポートフォリオについて

本稿では教科書 12 ページで言及した「ポートフォリオ」について説明します。ポートフォリオとはもともと、さまざまな書類を入れるためのカバンという意味で、それが転じて複数の金融商品の組み合わせをさすようになりました。ポートフォリオの意義を理解するため、例として、翌日の天気は晴れたら利益があがり、1株当たり 20 円の配当を出すが、雨が降ったら利益が上がらず配当を出さない A 社株と、翌日雨なら利益が上がりに、1株当たり 20 円の配当を出すが、晴れたら配当を出さない B 社株の二つの株を考えます。両者の今日時点での株価をともに 1 株あたり 50 円とします。説明を簡単にするため、天気は晴れか雨かのどちらかで、今日の段階で明日の天気がどうなるか全くわからないものとします。各社の株の株価と配当の状況は下の表 1 のようにまとめることができます。

表 1 2つの会社の株価と配当の状況

	株価 (今日)	配当(明日)	
		晴れ	雨
A 社株	50 円	20 円	0 円
B 社株	50 円	0 円	20 円

いま、C さんは手持ちのお金を 100 円使い、A 社の発行する株と B 社の発行する株のどちらかあるいは両方を買って運用することを考えます。もし A 社株のみを買う場合、株価が 50 円ですので、計 $100/50=2$ 株購入できます。この場合、晴れたら配当を計 $20 \times 2=40$ 円受け取れるものの、雨が降ったら配当は全く受け取れません。一方 B 社株のみを買う場合も 2 株購入できますが、このとき明日の天気が雨なら配当を 40 円受け取れるものの、晴れたら配当は全くありません。

ここで C さんが二つの会社の株式を 1 株ずつ買ったとしましょう。この組み合わせがポートフォリオです。このとき明日晴れたら A 社株の配当を 20 円、そして雨なら B 社株の配当を 20 円受け取れます。受け取れる配当の最高額は 40 円から 20 円に減ってしまいますが、天気という不確実性によらず配当を確実に受け取れるようになることがわかります。これらの状況は下の表 2 にまとめられています。

実際は株式を組み合わせても配当の不確実性を完全に除去することはできませんが、その程度を減らすことは可能です。ポートフォリオには金融商品の収益に関する不確実性を削減するという重要な役割があります。

表 2 株の保有と配当受け取り

株の購入方法	株式購入総額	配当金総額	
		晴れ	雨
A 社株のみ 2 株	100 円	40 円	0 円
B 社株のみ 2 株	100 円	0 円	40 円
A、B 社株 1 株ずつ	100 円	20 円	20 円